

## 第 8 回加東市地域公共交通活性化協議会及びその後の指摘事項等とその対応（■…活性化協議会、●…活性化協議会后）

No.	頁	指摘事項等	対応
1	P. 82 ～P. 83	<p>■「5. 加東市の地域公共交通の課題」の書きぶりが統一できていない。</p> <p>■課題 2 のタイトルは、「地域公共交通に関する財政負担の増加」とするよりも、「必要な財政を確保する」とするほうが望ましい。</p> <p>課題 1：過度な自家用車への依存からの転換 (略)</p> <p>また、高齢化の進行に伴い、自家用車で移動できなくなる人の増加や、高齢者が関わる交通事故の発生も懸念されるため、過度の自家用車への依存から路線バスをはじめとした他の交通モードへの転換の必要性を啓発するとともに、機運を醸成していくことが重要になります。</p> <p>そのためには、地域にとって大切な移動手段を提供する交通事業者とそれを支える行政が地域公共交通の利便性を向上し、市民が地域公共交通を安全・安心に、かつ気軽に利用できる環境を整える必要があります。</p> <p>課題 2：地域公共交通に関する財政負担の増加</p> <p>課題 3：地域公共交通に関する連携の強化</p> <p>鉄道、高速バス、路線バス、タクシー及び市町村運営有償運送など市内には様々な交通モードがあります。しかし、便数、時間帯及び乗り場（停留所）までのアクセスや乗継に課題があり、行政も含めて交通事業者相互の連携が十分に取れているとはいえない状況です。</p> <p>これまでからそれぞれの交通事業者が、安全運行と乗務員による丁寧な接遇をはじめ、ダイヤの見直しや便数の確保、ICカードやバリアフリーに対応した車両、web 上で運行状況が確認できるバスロケーション</p>	<p>⇒次のとおり修正します。</p> <p>課題 1：過度な自家用車への依存からの転換 (略)</p> <p>また、高齢化の進行に伴い、自家用車で移動できなくなる人の増加や、高齢者が関わる交通事故の発生も懸念されます。</p> <p>そのため、過度の自家用車への依存から路線バスをはじめとした他の交通モードへの転換の必要性を啓発するとともに、機運を醸成していくことが重要になります。</p> <p>したがって、地域にとって大切な移動手段を提供する交通事業者とそれを支える行政が地域公共交通の利便性を向上し、市民が地域公共交通を安全・安心に、かつ気軽に利用できる環境を整える必要があります。</p> <p>課題 2：地域公共交通の維持・確保に必要な財政の確保</p> <p>課題 3：地域公共交通に関する連携の強化</p> <p>鉄道、高速バス、路線バス、タクシー及び市町村運営有償運送など市内には様々な交通モードがあります。</p> <p>これまでからそれぞれの交通事業者が、安全運行と乗務員による丁寧な接遇をはじめ、ダイヤの見直しや便数の確保、ICカードやバリアフリーに対応した車両、web 上で運行状況が確認できるバスロケーション</p>

No.	頁	指摘事項等	対応
		<p>システムの導入、停留所等の待合環境の改善など、サービスの向上や移動のしやすさ(モビリティ)の向上による利用者増に取り組みられてきました。</p> <p>しかし、これからのまちづくりには持続可能な地域公共交通のネットワーク形成が不可欠なことから、これまで以上に交通事業者相互の連携や行政との連携を強化する必要があります。</p> <p>(略)</p> <p><b>課題4：地域公共交通の果たすべき役割や重要性の理解</b> (略)</p> <p>一方で、市内の一部地域においては、移動手段の確保ができずに依然として公共交通空白地が存在することから、市内全域を網羅した地域公共交通ネットワークの形成が必要です。</p> <p>そのために、行政として日常の多くの部分を自家用車に依存した生活者に対して、市町村運営有償運送の取組などを広くPRしながら、地域公共交通の維持・確保に市民や地域が主体的に取り組む意識や機運を醸成していくことが重要になります。</p>	<p>システムの導入、停留所等の待合環境の改善など、サービスの向上や移動のしやすさ(モビリティ)の向上による利用者増に取り組みられてきました。</p> <p>しかし、便数、時間帯及び乗り場(停留所)までのアクセスや乗継に課題があり、行政も含めて交通事業者相互の連携が十分に取れているとはいえない状況です。</p> <p>これからのまちづくりには持続可能な地域公共交通のネットワーク形成が不可欠なことから、これまで以上に交通事業者相互の連携や行政との連携を強化する必要があります。</p> <p>(略)</p> <p><b>課題4：地域公共交通の果たすべき役割や重要性の理解</b> (略)</p> <p>一方で、市内の一部地域においては、移動手段の確保ができずに依然として公共交通空白地が存在しているため、日常生活を営むための移動に不便をきたしている人もみられます。</p> <p>そのため、今後は公共交通空白地を解消するために、市内全域を網羅した地域公共交通ネットワークの形成が必要となります。</p> <p>加えて、行政として日常の多くの部分を自家用車に依存した生活者に対して、市町村運営有償運送の取組などを広くPRしながら、地域公共交通の維持・確保に市民や地域が主体的に取り組む意識や機運を醸成していくことが重要になります。</p>
2	P. 89	<p>■基本方針4「地域公共交通を地域ぐるみで守り、育てます。」について、「しかし一方で」でなく「そのためには」のほうが文章のつながりとして適切である。</p>	<p>⇒ご指摘のとおり修正します。</p> <p>地域公共交通を将来にわたって維持・確保していくためには、交通事業者と行政が、より安全・安心かつ便利で快適に利用できるよう積極的にサービスの見直しや改善に取り組むことが重要になります。</p>

No.	頁	指摘事項等	対応
			<del>かし一方で、</del> そのためには、サービスを受ける市民及び地域や企業・団体の受益者が、日常生活での様々な移動において積極的に地域公共交通を利用することが重要になります。
3	P. 95	■「現状を維持」とはどういうことか。	⇒利用者の維持・増加ではなく現行のバス路線を維持するという意味で、誤解を避けるために「現状の路線を維持」に変更します。
4	P. 105	■高速バスの停留所が、なぜその位置になったのかわからない。	⇒意見を踏まえ、次のとおり追記します。 路線バスルートやバス停留所の位置等の見直しに当たっては、交通事業者だけで検討するのではなく、利用者である市民及び地域などと共に協議・調整しながら取り組んでいきます。
5	P. 114	<p>■モビリティ・マネジメントなどでの兵庫教育大学との連携について、言及すべき。</p> <p>■モビリティ・マネジメントは、小学生だけでなく、中学生・高校生にも実施している。</p> <p>学校などで、「地域公共交通」に関する講義や「バスの乗り方教室」等の体験学習を実施します。また、事業所などでは、通勤時における自家用車利用の削減を、自身の健康増進や環境面での貢献を含めて、呼びかけます。</p> <p>加えて、地域公共交通の利用者が少なくなることで減便や路線の廃止につながるため、乗って守らなければならないことの意識付けに努めます。</p>	<p>⇒次のとおり修正するとともに、追記します。</p> <p>市内の小学校や中学校、高等学校だけでなく国立大学法人兵庫教育大学で、「地域公共交通」に関する講義や「バスの乗り方教室」などの体験学習を実施します。加えて、地域公共交通の講義を受けた大学生が、小学生や中学生、高校生に対してモビリティ・マネジメントを実施できないか検討します。</p> <p>また、事業所などでは、通勤時における自家用車利用の削減を、自身の健康増進や環境面での貢献を含めて、呼びかけます。</p> <p>そして、地域公共交通の利用者が少なくなることで減便や路線の廃止につながるため、乗って守らなければならないことの意識付けに努めます。</p>

No.	頁	指摘事項等	対応
6	P. 26	● 「4. 2. 2 路線別運行ダイヤ」の精査、再確認	⇒路線バスの運行本数及び起終点について、神姫バス様からの指摘により修正しました。
7	P. 45	● 「4. 3. 2 路線別運行ダイヤ」の精査、再確認	⇒高速バスの運行本数について、神姫バス様からの指摘により修正しました。
8	P. 94	●表「交通結節点の位置づけ」の精査、再確認	⇒具体の路線について、神姫バス様からの指摘により修正しました。
9	—	●—	⇒No. 6～8以外に、神姫バス様からの指摘により、路線バス名など数か所を修正しました。